

鈴木総理がカナダ訪問 サミットなどで話し合う

五月九日、鈴木首相がカナダを訪れ、トルドー首相とオタワ・サミットの内容や日加間の自動車問題などについて話し合った。

席上、サミットについては、トルドー首相が最近の国際情勢を踏まえて、先進国間の危機管理体制の討議を提案したという。またカナダが自主規制を求めていた日本の対加自動車輸出問題に関しては、鈴木首相ができるだけ早い時期の解決を約束、さらに話し合いを継続することで見解が一致した。

(自動車問題については、日本政府が一九八一年度に対加輸出を六パーセント削減することに同意したことにより、一応の決着を見た。)

老年向けの夏期合宿講座 各地の大学に「エルターホステル」

定年を迎えた夫婦が、夏の間、大学の学生寮に合宿して地域の歴史などを勉強する、という「エルターホステル」が、カナダ各地の大学に広がっている。

「エルターホステル」とは、大学が夏休み中の教室と寮を一般に開放している短期講座で、六十才以上(およびその配偶者)なら、誰でも参加できる。期間は一週間、費用はきわめて安く、旅行と知的刺激と交友とで老後を豊かに過したい人々に喜ばれている。

昨年は参加大学一校、受講者数八十名だったが、今年は参加十校に千名以上が集まる見込み。

現在のところ、この運動は大西洋岸諸州が中心だが、オンタリオケベック両州でも実現の動きが見られる。また米、英、スウェーデンなどの外国にも広がっているところから、推進者の間では国際交流制度も検討されているという。

今年六・八月に「エルターホステル」の開催を予定している大学には次のようなものがある。かつこ内は講義内容の一例。ノバスコシア州セントアン大学(カナダ近代史、アカディア地方史)、ニューファンドランド州メモリアル大学(州史、環境問題)、ニュー・フランスウィック大学(家族史、大西洋岸地方のカナダ文学史)、プリンス・エドワード島大学(同島の歴史と民話、島の生態学)。

BC州に「ゴールド・ファイバー」

フリテイツシュ・コロンビア州の山々や谷に、今、金鉱を求める男たちのツルハシや削岩機の音が絶えない。ここ数年の金価格高騰によつて、新鉱脈の探査はもろろん閉鎖されていた旧鉱山の見直しもさかんになり、あたかも「ゴールド・ラッシュ」時代が再来したようだ。同州の金生産量は一昨年から二六万六千四百オンス、昨年が二一三万三千六百オンスとほぼ横ばいだったが、生産額は一億四千万ドルから一億五千九百万ドルへと

五〇パーセントも増加した。

今年には新たに、BC州の二大金山といわれるスコッティ・ゴールド鉱山(サミット・レーク鉱区)とキャロリン鉱山(ラドナー・クリック地方)が操業に入り、両社合計で年間十萬オンスの金を新規生産する。スコッティ・ゴールド鉱山はこの六月に作業開始、原鉱処理量は当面、日産二百トン、原石一トンにつき〇・六五オンスの金産出を想定している。

中小鉱山の動きも活発で、スター・デイ・バレーにあるベーカー山は、交通手段が空路だけという陸の孤島にもかかわらず、機械や要員を小型飛行機で送り込んでいるし、クイーン・シャーロット島のシノーラ鉱山は原鉱日産一萬トンの露天掘りを準備中。副産物として銀も各所で発見されている。

三十分で届く電送郵便 カナダ各地で利用可能に

文字や図形の郵便物なら、国内外を問わずわずか三十分で送れる、というカナダ自慢の電送郵便網が、最近、国内全域の主要都市で利用できるようになった。

「イルテルポスト」と呼ばれるこの郵便制度は、衛星中継によつて手紙や写真を各国へファクシミリ電送するもので、昨年からはカナダのトロントと外国諸都市(ロンドン、ニューヨーク、ワシントン、ベルン、アムステルダム)との間で即日配達の際際郵便として重宝

がられてきた。

従来このサービスは、カナダ郵政省とカナダの国際電公社テレグロフ・カナダとで行ってきた。最近これにCNCPTテレコミュニケーションズ社が加わり、テレグロフ・カナダの国際衛星通信網とCNCPTの国内マイクロ波網がリンクしたため、モントリオール、オタワ、ハリファックス、ウイニペグ、カルガリー、エドモントンの各都市からも、電送サービスが受けられるようになったもの。

また国際郵便だけでなく、国内郵便も電送できるようになったので、今後は国民一般の利用もふえると思われる。

この電送サービスでは、各都市の郵便局に置かれたファクシミリ送受信機に手紙を入れると、国内郵便はマイクロ波網を通じて国内各地の郵便局へ送られ、国際郵便はマイクロ波網でトロントへ送られた後、衛星通信網で海外の受信局へ送られる。

送る内容は印刷、タイプ、手書き文、図形、写真など、どんなものでもOK。一ページ分三百五十文字を二十五秒で送る。一ページの送料は国内宛で四ドル、外国宛で五ドル。投函してから三十分で宛て先に届く。

バンクーバーでも近くサービス開始の予定。

横田氏(日本鋼管)に表彰状

日本鋼管の横田久生会長(日加

経済人会議日本委員会会長)が、日加経済交流の増進に多大な功績があったとして、このほどトルドー首相から表彰状を授与された。日本人では、日清製油の坂口幸雄会長に次いで二人目。

トロント・NY間に特急列車

ニューヨーク・トロント間の特急列車運行が十年ぶり再開され、この北米二大都市の間の旅がさらに便利になった。



四月末から始まったこの路線は、米国のアムトラック(全国鉄道旅客公社)とカナダのVIA Rail(カナダ鉄道)が共同で走らせるもので、ニューヨーク・ナイアガラ間はアムトラック乗務員が、ナイアガラ・トロント間はカナダ鉄道の乗務員が運行に当る。

料金は大人片道六十三米ドル(七十二カナダドル)。毎日一回、ニューヨークから午前八時四十五分(トロント到着午後八時三十分)、トロントから午前九時五分(ニューヨーク到着午後八時五十分)に出発する。